

# 沖縄市中心市街地活性化基本計画について

沖縄市 経済文化部 にぎわい創造室 中心市街地活性化推進担当 高江洲 昌彦

## 1. はじめに

沖縄市は、沖縄本島のほぼ中央部に位置する人口約13万人、市域面積49km<sup>2</sup>、また、平成17年度国勢調査においては15歳未満の年少人口の割合が全国一高い市となった都市であります。

市域面積のうち約36%を米軍基地が占めており、そのため本市の戦後は、27年間におよぶ米軍統治下において、基地から様々な影響を受けながら、広大な嘉手納基地の門前町として基地経済に支えられ、急速な発展を遂げてきました。

1974年（昭和49年）にコザ市と美里村が合併したことにより沖縄市が誕生し、沖縄県をリードする国際文化観光都市の実現をめざし、新たなまちづくりに努力を重ね続けてきた歴史があります。

また、本市は多彩な地域資源を有しており、戦前より地域住民に親しまれてきたエイサーをはじめとして民謡、京太郎、獅子舞、綱引きなどの多くの伝統芸能や基地からの文化的影響によるジャズ、ロック、ラップ、ヒップホップといった多彩なジャンルの音楽などの豊かな文化資源がまちのアイデンティティを創出する源泉として、市民に定着し、著名なアーティストを輩出するなどその特異な風土を築きあげております。

一方、本市の産業別就業者数はその約78.6%を第3次産業が占め、なかでもサービス業に特化した産業構造になっていることから、零細企業が大半を占めるとともに、失業率も13.7%（平成17年国勢調査）と高く、若年層の雇用問題が一段と厳しい状況にあります。

そこで産業振興と雇用の場の確保をめざしてIT関連産業の誘致に努めるとともに、中の町再開発事業など、都市福利施設の整備をはじめ、中心市街地の活性化に取り組んでいるところであります。

## 2. 中心市街地の課題

これまで実施してきた中心市街地の現状分析や住民ニーズなどの把握・分析、旧中心市街地活性化基本計画の検証を整理すると、本市の中心市街地においては次の2つの課題があります。

【課題1】豊かな地域資源を活かした中心市街地の再生

本市は戦後、「基地経済」に支えられ、海外文化の影響を極めて色濃く反映してきたことから、沖縄県下でも独特とされる「コザ文化」を育み、音楽・芸能をはじめとして生活様式に至るまで、来街者を惹きつけてやまないコザ地域固有の文化資源を豊富に有しております。

また、米軍駐留という歴史的背景の下で形成された国道沿線に連なる帯状型の中心市街地には、コザ十字路地域・胡屋十字路地域・山里地域それぞれが地域性を活かした異なる商業機能を発達させてきました。

こうした恵まれた「地域資源」を積極的に活用し、「コザ」らしい魅力を高めることにより、他の地域とは一線を画した個性的なまちづくりによる差別化を図った中心市街地の再生が課題となっております。

【課題2】住みたい・住み続けたい中心市街地への再生

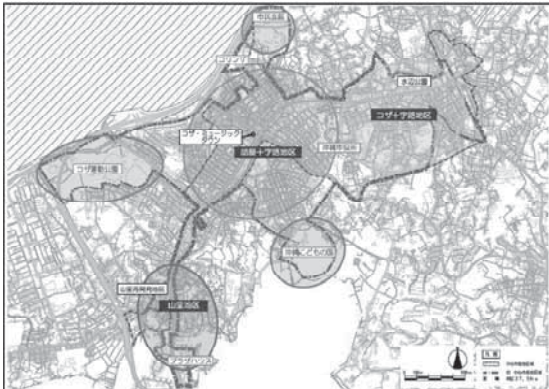
本市の中心市街地は、都市機能がコンパクトに集積しているとともに、年少人口比が全国一高い市であることを背景としたこどものための施設、さらにかねてより盛んであったスポーツ及びその場となる施設など、多面的な都市機能に資する資源を豊富に抱えております。

こうした優位性を活かしながら居住ストックの確保はもとより、市民ニーズに基づくより幅広い視点でのまちづくりを推進することが重要であると考えており、多面的な都市機能を充実することで街全体としての魅力を向上させ、住みたい・住み続けたいと

思える中心市街地を実現していくことが課題となっております。

### 3. 区域

中心市街地の区域は、大きく区分すると「コザ十字路地区」、「胡屋十字路地区」、「山里地区」の3地域に分かれており、商業機能を中心とした様々な都市機能を有し、それらが互いに補完しあうコンパクトなまちが連綿として続いております。



### 4. 中心市街地活性化の基本方針と数値目標

本市では、次の2つの基本方針と目標を設定し、活性化を進めていきます。

#### 基本方針1

コザ文化の継承と発展によるにぎわいづくり

#### 目標1

■ コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進によるにぎわいの創造

目標指標1 歩行者通行量(休日)

現況値(H21年): 5,964人/日



目標値(H26年): 6,302人/日

#### 基本方針2

住む人目線での良好な生活空間の創出

#### 目標2

■ 中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善

目標指標2 都市福利施設の年間利用者数

現況値(H21年): 907,457人/年



目標値(H26年): 1,201,057人/年

### 5. 中心市街地活性化のための主な事業

#### 安慶田地区土地区画整理事業

商業地に隣接する老朽化した密集住宅地である安慶田地域において、多様な世帯に対応した住宅供給やコミュニティ(地域力)の再生を図るために区画整理事業を実施します。

#### 胡屋地区リノベーション事業

胡屋地区リノベーション事業では、商環境の悪循環の原因となっている長期空き店舗物件を改修し、公共的な施設やチャレンジショップの機能を再配置することで、生活の中の商店街を提案し、まちのイメージアップにつなげていきます。



胡屋地区リノベーション事業 完成イメージ図

#### プロムナードコンサート事業

沖縄市の地域資源である音楽を活用して、商店街等で市内の小・中・高・一般の吹奏楽団と地元ミュージシャンなどによる音楽イベントを開催するとともに一店逸品運動や商品券事業を同時に開催することで商店街への回遊の促進と各個店への波及を図ります。

#### ミュージックタウン音市場事業

本市が推進する「音楽によるまちづくり」の中核的施設であるミュージックタウン音市場において、修学旅行生を対象とした沖縄の歴史文化を学ぶ事ができる沖縄風エンターテインメントステージを創作し、にぎわいの創出を図る事業で音楽の産業化を目指します。

#### 中心市街地循環バス事業

中核地区である胡屋地区において「音楽によるまちづくり」の中核的施設であるミュージックタウン音市場を中心に本市の主要施設を結ぶ循環バスを走

らせることにより、市民および来街者の回遊性を促し、にぎわいの創出を図ります。



中心市街地を循環する無料バス

#### 山里第一地区市街地再開発事業

当該再開発地域は、国道、県道の交差する交通の要所であるものの戦後、基地の門前街として急速か

つ無秩序に住戸が建設されたために下水道、生活道路などが未整備で、また、低未利用地が多い地域であるため、組合施工による再開発事業を行い、地域のコミュニティ再生と周辺住民の利便施設としてスーパーやクリニックモール等を配置します。

## 6. おわりに

現状の中心市街地は、かつてのにぎわいを失い商業機能も低下しており、大変厳しい状況にあります。

しかしながら、基本計画の認定後は、まちづくりに関する活発な議論が地域住民や関係団体の皆様のご協力のもと行われていることから、確実に活性化に向けた機運が高まっていると感じております。

今後は、その議論を踏まえた上で、さらなる活性化施策を展開し、中心市街地の活性化を着実に図っていきたいと考えております。

(たかえす まさひこ)